

韓国で空前の大ヒットを記録したコミック&映画の《原作》日本語版ノベライズ

「黒く濁る村」

ノベライズ: 相田冬二 発売: 11月20日 (11月18日取次搬入予定)

今年、韓国では340万人動員の大ヒットを記録し、第18回利川春史大賞(韓国)で最優秀作品賞を含む最多の7部門を受賞した「黒く濁る村」(11月20日(土)より丸の内TOEI、シネマスクエアとうきゅうほかにて全国ロードショー 配給:CJ Entertainment Japan)の《原作》日本語版ノベライズが、全国公開にあわせて11月20日(土)に全国書店にて発売となります(原作はユン・テホのコミック。原題『苔-MOSS-』日本未発売)。

日本語版ノベライズは、「キサラギ」、「パンドラ」、「大洗にも星はふるなり」、「息もできない」(AC Books刊)などの小説版を手掛け、「キネマ旬報」映画レビューでも活躍する相田冬二氏が担当。黒い苔のようにへばりつくサスペンス・スリラー、“暴こうとする者”と“隠そうとする者”の命をかけた勝負。村人たちによってこの村に隠されている秘密とは!?

●ストーリー

なんだろう?この嫌な感じは?

この村人たちはいったい?

ひとたび気に入らないと、何事もとことん追い詰める狼のような根性をもつ男ユ・ヘグク。些細な事件に巻き込まれすべてを失った彼に、親子の縁を切って暮らしてきた父の訃報が届く。父が暮らした村に足を踏み入れたヘグク。そんなヘグクにあからさまな敵意をむける村人たち。ヘグクは彼らの反応に嫌悪感を抱き、村を牛耳る村長チョン・ヨンドクの鋭い視線に本能的な恐怖を抱く。

いったい、この村には何が隠されているのか?覆いをかけて葬り去ろうとしていた彼の本能は徐々に呼び覚まされていく。彼らが隠している、その何かを暴くまで、<苔>のようにひっそりとこの村に張り付いて生きていこう。…そして、そんなヘグクの背中にもまた、村人たちの陰湿な視線が<苔>のように張り付いてくるのであった。



原作 ユン・テホ / 著 金鍾一 / 翻訳 李明姫 / 日本語版ノベライズ 相田冬二
 並製本・四六版・360頁(仮)、予価 1,890円(税込) ISBN 978-4-904249-26-0 C0074

注文書	貴店名【帳合】	注文数	AC Books	Fax 03-3434-7079
			黒く濁る村	
		冊	ISBN 978-4-904249-26-0	定価 1,890円 備考